

WEALTH GROWTH「SAMURAI 25」

月間運用実績レポート（2026年7月）

■ パフォーマンス

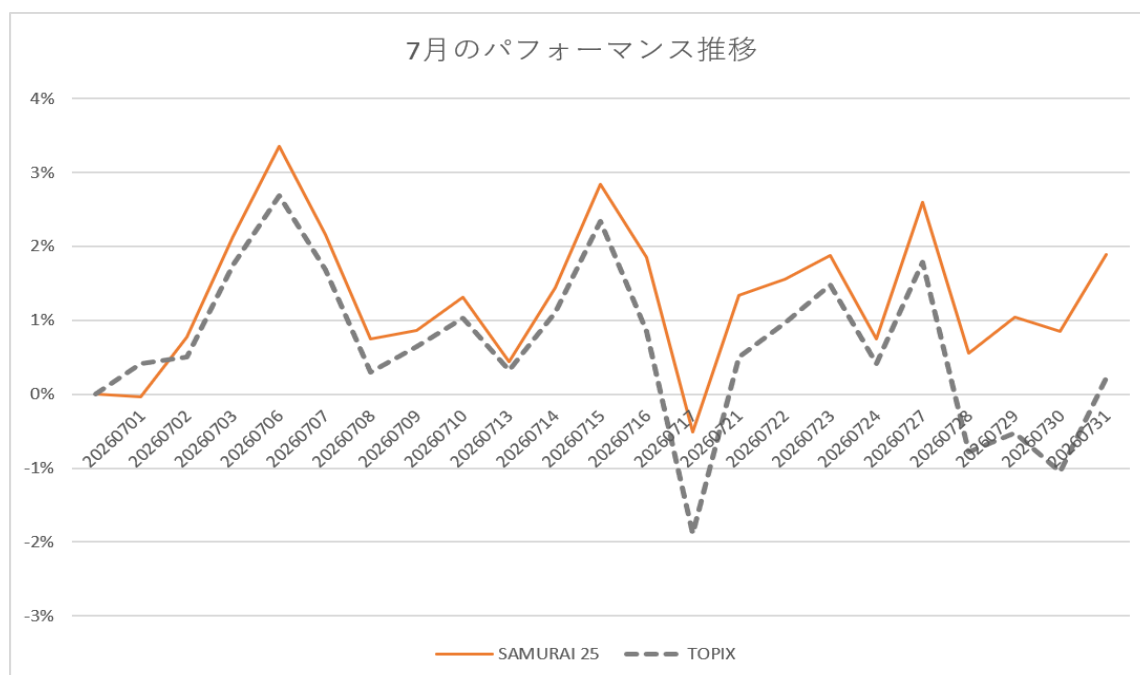
➤ ファンドの月間パフォーマンス

SAMURAI 25	+1.89%
------------	--------

➤ 各指標の月間騰落率

TOPIX	+0.21%	(配当込み)	+0.22 %
日経225	△8.14%		
NYダウ	+0.32%		
S&P500	△0.13%		
NASDAQ	△3.20%		

➤ 7月のパフォーマンス推移



	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
SAMURAI 25	1.89%	4.66%	6.95%	42.76%	229.35%
TOPIX	0.22%	7.59%	13.57%	39.16%	160.79%
超過収益	1.67%	-2.93%	-6.62%	3.59%	68.56%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

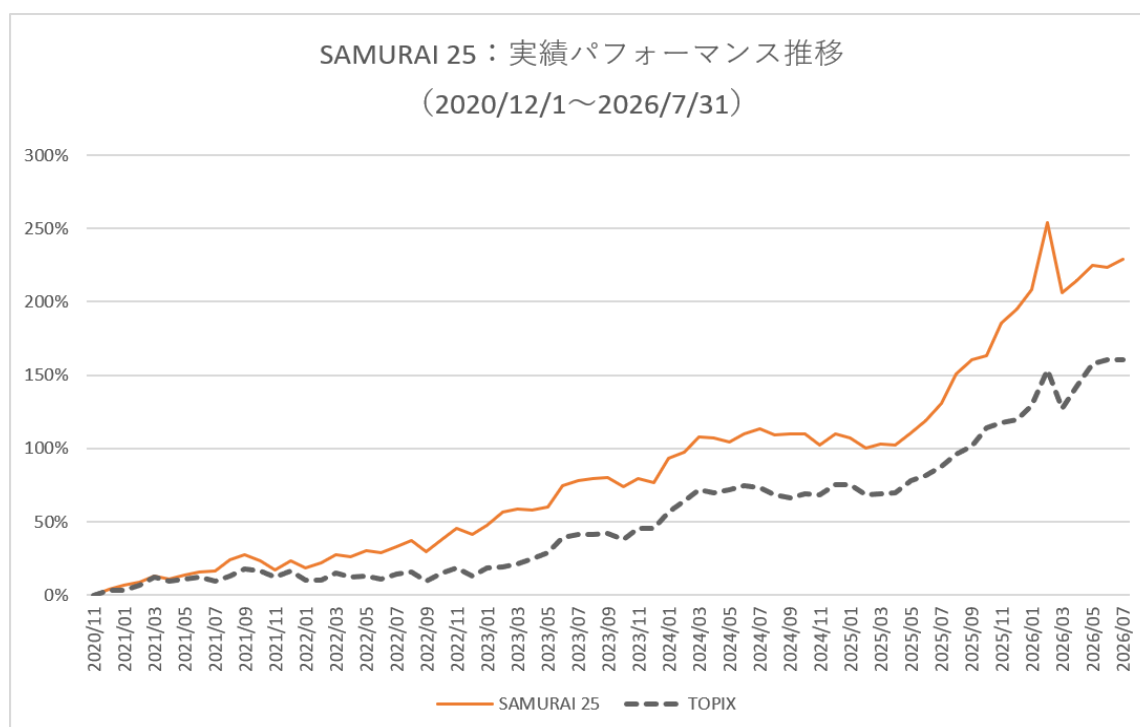
※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

SAMURAI 25の7月の運用成績は+1.89 %（配当込み）となり、TOPIXは +0.22 %（配当込み）、対ベンチマーク比で+1.67 %（配当込み）となり、ベンチマークをアウトパフォームする結果となりました。

➤ **設定来のパフォーマンス推移グラフ**

SAMURAI 25の2020年12月1日（サービス開始）から2026年7月末までの運用実績です。



※「SAMURAI 25」は、スマートプラスが提供する他の日本株投資一任運用サービスにおいて、すでに運用実績がある投資戦略に基づく運用手法をもとに開発した運用エンジン「+alpha japan」を搭載したサービスです。運用実績には、「+alpha japan」を採用した他の運用商品による2020年12月～2025年7月までの実績が含まれています。

運用成績	SAMURAI 25	TOPIX
年間リターン(2021年)	18.73%	12.74%
年間リターン(2022年)	14.59%	-2.45%
年間リターン(2023年)	24.43%	28.26%
年間リターン(2024年)	18.72%	20.45%
年間リターン(2025年)	40.72%	25.46%
年間リターン(2026年)	11.58%	18.82%
累積リターン(2020/12-2026/7)	229.35%	160.79%

リターン（年率換算）	23.41%	18.43%
リスク（年率換算）	14.25%	12.29%
下方リスク(年率換算)	7.51%	6.70%
シャープ・レシオ	1.64	1.50
ソルティノ・レシオ	3.12	2.75

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

■ 7月の市況概況

➤ 日本市場

7月の日本市場は、高市政権初の「責任ある積極財政」を反映した骨太の方針の閣議決定、長期金利の約30年ぶり高水準到達、1ドル164円目前まで迫る円安とそれに対する日米15年ぶりの協調介入、そして月末に発生した熊本県での最大震度7の地震と、経済・財政・金融・天災において歴史的な動きが重なり、極めて激しい価格変動を余儀なくされました。

・第1週（7月1日～7月3日）／日経225 △0.45% TOPIX : +1.75%

財政拡張路線への警戒と長期金利の歴史的急上昇

6日日銀短観における大企業製造業DI（プラス22、8年ぶりの高水準）等を背景に株価は一時上昇したものの、半導体株の利確売りに押され調整含みの展開となりました。政府の「骨太の方針」原案において「財政健全化」の目標が削除され大型投資枠が掲げられたことで、市場では国債の増発懸念や財政規律の緩みが意識されました。新発10年物国債利回りは1996年10月以来およそ30年ぶりの高水準となる一時2.810%まで急上昇し、債券売り圧力が強まりました。

・第2週（7月6日～7月10日）／日経225 : △1.70% TOPIX : △0.70%

サムスンショックによる急落から「片山発言」による相場反転

韓国サムスン電子の好決算発表後の材料出尽くし売りや投機的資金の流出に連動し、東京市場でも主要半導体関連株が急落、日経平均は1480円安となり、翌日も1437円安と大幅な下落を記録しました。また、債券市場でも10年債利回りが一時2.870%まで上昇しましたが、週末に片山財務相が「GPIFによる国内金融資産への投資を後押しする」と表明したことで形勢は急転、国債が急速に買い戻されて長期金利は前日比0.175%低下し、為替も一時1円以上も円高に振れ、株式市場も上昇するなど、事実上の口先介入が強力に機能しました。

・第3週（7月13日～7月17日）／日経225 : △6.44% TOPIX : △2.90%

利上げ期待を反映した金融株の上昇、一方で相次ぐサイバー攻撃とコンプラリスク

日銀の追加利上げ観測を背景とした貸出利ざや改善への期待から銀行株が買われ、三菱UFJフィナンシャル・グループの時価総額が約42兆円に達し、トヨタ自動車を抜いて日本企業首位に躍り出ました。一方、骨太方針最終案に「日銀の自主性尊重」が明記されたものの、円安は一時1ドル162円台後半まで進行、さらに、低温物流最大手のニチレイロジグループへのサイバー攻撃によるシステム障害で食品流通が麻痺し親会社株価が8%超急落したほか、キオクシアが米地裁から370億円の特許侵害賠償命令を受けたことが株安要因となり、日経平均は週末にかけて記録的な下落に見舞われました。

・第4週（7月21日～7月24日）／日経225 : +0.73% TOPIX : +2.35%

骨太の方針閣議決定と「攻めのガバナンス」改定

日経平均株価は連休明けに2091円高の自律反発を見せましたが、米国ハイテク株安やトランプ関税強化（日本へ12.5%）、さらに、韓国でのレバレッジ型個別株ETFの規制前倒し報道を機にパニック的な売りが先行し、週末は日経平均は1811円安と乱高下する展開となりました。政府は戦略17分野へ累計370兆円超の官民投資を推進する「骨太の方針」を正式に閣議決定し、金融庁と東証は内部留保を成長投資へ配分することを促す「コーポレートガバナンス・コード」を5年ぶりに改定し、企業の「攻めのガバナンス」進化を促しました。

・第5週（7月27日～7月31日）／日経225：△0.39% TOPIX：△0.20%

熊本M7.1の激震と「インフレ3要因」を標的とした協調介入

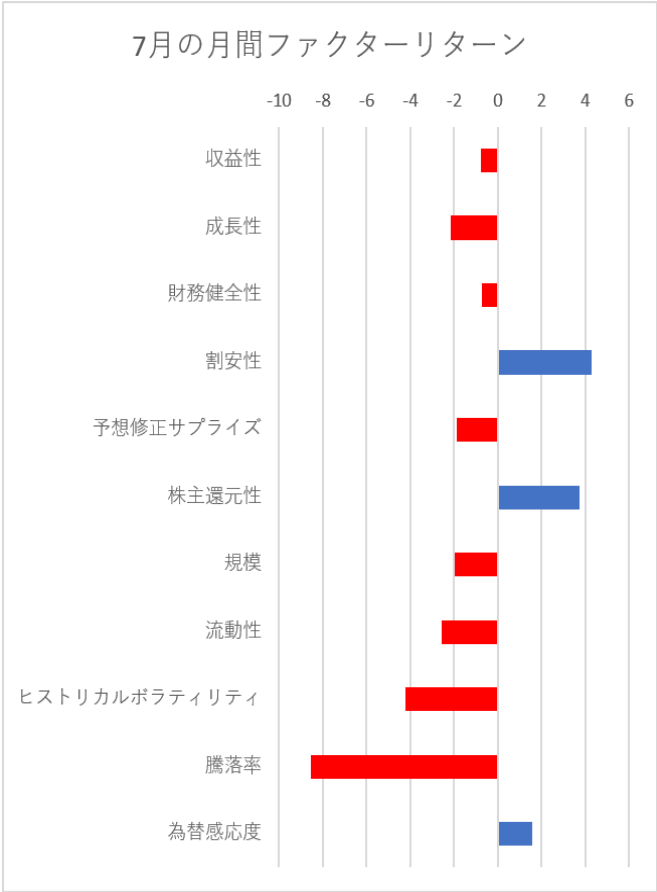
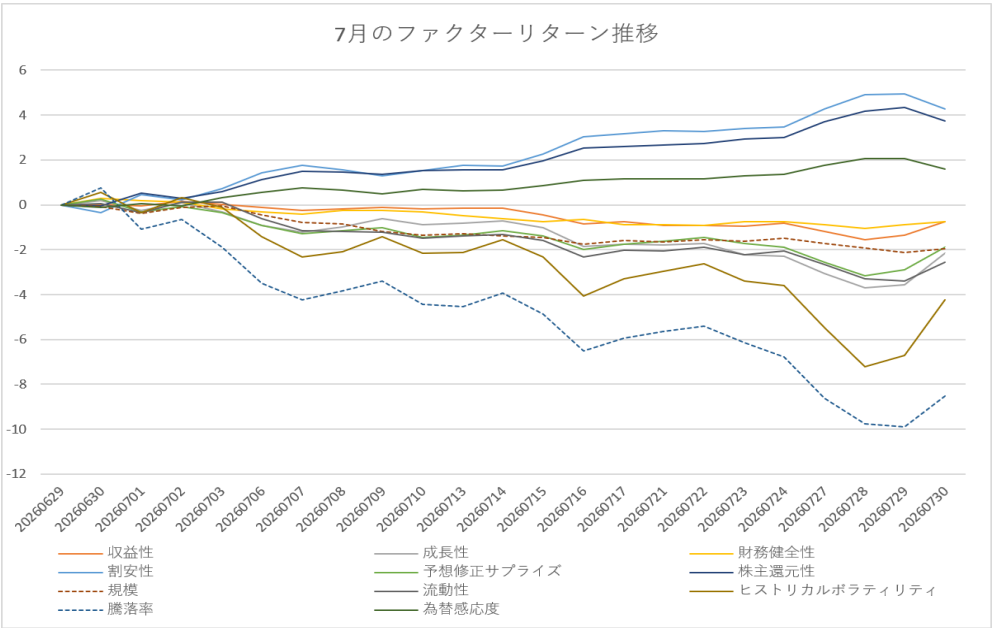
28日に熊本県で最大震度7の地震が発生し、TSMCやソニーの半導体工場、主要な自動車工場が操業を停止し、サプライチェーンの寸断懸念から日経平均は一時3000円超急落しました。しかし、キオクシアの好決算と最大8000億円の自社株買いや、アドバンテストの大幅な業績上方修正が好感され、週末は2494円高と歴史的な急反発を記録しました。また、日銀は金利を1.0%に据え置きましたが、植田総裁は「原油高・AI需要・円安」をインフレ3要因としタカ派姿勢を強調しました。為替市場では、ドル円が164円目前まで下落した局面を突き、日米当局が2011年以来15年ぶりとなる「協調介入」を敢行、一時157円台まで5円幅で急騰させ、歴史的な円安進行に急ブレーキをかけました。

月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

7月は、出遅れ傾向にあった低リスクの中小型バリュー株が堅調となりました。

ファクターの推移を見ても、割安性ファクター・株主還元性ファクターがプラスとなる一方、騰落率ファクター・ヒストリカルボラティリティファクター・成長性ファクター・規模ファクターが大きくマイナスとなり、ハイリスクのグロース株が大幅な調整を余儀なくされるなか、上昇局面では蚊帳の外に置かれ、出遅れ傾向にあった低リスクの中小型バリュー株が相対的に堅調となったことが見て取れます。



➤ ファクター寄与度

そのような市況環境のなか、**SAMURAI 25**は、市場平均であるTOPIXをアウトパフォームする結果となりました。

SAMURAI 25がTOPIXをアウトパフォームした要因は、

SAMURAI 25が持つバリュー要素の「割安・高配当」特性がプラスに寄与、さらに、市場平均よりも「アンダーウエートしているヒストリカルボラティリティファクター（＝低リスク特性）」もプラスに大きく寄与したためです。

7月に入ると、AI・半導体関連の大型株に集中していた資金は、出遅れ傾向にあった割安の中小型株へ分散し始めました。

これにより、行き過ぎた上昇モメンタム投資は調整を余儀なくされ、キオクシアが1カ月程度の短期間で高値から約1/3になる等の大幅な調整が進みました。

本レポートで度々言及していますが、

AI関連銘柄の成長性の高さは誰もが否定するものではありませんが、無限の成長を織り込み続けることは、もはや、バブルに近い発想であり、「上がるから買う、買うから上がる」という上昇モメンタム（勢い）を追う投資は、ひとたび買い手が引けば急落につながるハイリスクなものです。

やはり、長期投資を目的とするのであれば、値動きだけに振り回されることなく、精緻なリスク管理とファンダメンタルズ（業績や財務）を重視したポートフォリオを運用し続けることが重要ではないでしょうか。

SAMURAI 25は、守りの「高配当・割安」特性、攻めの「高収益・高成長」特性、そして株価の起爆剤（カタリスト）となる「業績上方修正」特性を兼ね備えた、バランスの良いポートフォリオを運用し続けており、価格変動が大きな市場環境において、これまでも実績を残してきました。

バランスの良い「本質的価値のある銘柄群を保有する」という運用哲学を変えることなく、実績ある運用戦略を一貫して行うことが重要と考えています。

➤ 個別銘柄寄与度

寄与度上位5銘柄

No	銘柄コード	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	6473	株式会社ジェイテクト	5.6%	0.601%	
	トヨタグループの大手機械・自動車部品メーカー。自動車用ステアリング（世界トップクラス）や軸受（ベアリング）、工作機械を柱として展開しています。自動車生産の回復や構造改革（原価低減）の成果が見られ、営業利益・純利益ともに急回復の局面を迎えています。電動化（EV/HEV）に対応した軸受や駆動ユニットの開発に注力中です。直近の業績回復シナリオと割安な株価水準がポジティブに評価されています。				
2	8015	豊田通商株式会社	4.2%	0.493%	
	トヨタグループの総合商社。自動車・部品の輸出入や現地生産支援を核に、金属、化学品、エレクトロニクス、さらにアフリカ地域での事業や再生可能エネルギー（風力・太陽光）に強みを持ちます。トヨタ自動車の世界生産が底堅く推移していることを背景に、自動車バリューチェーン事業が非常に安定して推移しています。また、脱炭素領域やアフリカ市場での成長投資を加速させています。他商社に比べて資源市況への依存度が低く、強固な実体ビジネス基盤と成長領域での先行優位性が評価されています。				
3	8424	芙蓉総合リース株式会社	4.3%	0.457%	
	みずほフィナンシャルグループ系の大手総合リース会社。情報通信機器、医療機器、不動産、航空機、再生可能エネルギー関連のリース・ファイナンスを展開しています。設備投資需要の持ち直しに加え、不動産アセットマネジメント事業やBPO（業務代行）サービスなどの非リース分野が伸長。20期以上連続で増配を継続するなど、極めて高い株主還元姿勢を示しています。連続増配に裏打ちされた強固な収益力と、金利上昇局面における適切なマージン管理能力が高く評価されています。				
4	7864	株式会社フジシールインターナショナル	1.9%	0.421%	
	シュリンクラベル（ペットボトル等の熱収縮ラベル）で世界トップクラスのシェアを誇るパッケージメーカー。粘着ラベルや包材、装着機械までを一貫して提供しています。世界的な環境配慮（リサイクル性の高い薄型ラベルや脱ブラ素材への切り替え）ニーズを追い風に受注が堅調です。海外（米州・欧州）での収益性改善と価格改定の浸透が利益を押し上げています。高いグローバルシェアとESG関連テーマ（環境対応パッケージ）としての側面、および安定したキャッシュ創出力が好感されています。				
5	8628	松井証券株式会社	4.7%	0.399%	
	ネット証券のパイオニア。個人投資家向けに株式、FX、投資信託などのオンライン取引サービスを提供しています。新NISA制度に伴う投資インカム需要を取り込むため、投資信託の手数料還元施策などを強化。国内株式市場の活況を背景に、預かり資産残高・手数料収入ともに着実に増加しています。安定した高い配当利回りも評価されています。				

■SAMURAI 25の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、TOPIXを凌駕するパフォーマンスを目指します。

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：東証プライム市場に上場する約1,600銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

特色 3：銘柄選択において、「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」のバランスの良いモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはTOPIX ±15%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・SAMURAI 25のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AI にファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」

4. ファクターの説明

SAMURAI 25は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	財務健全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
4	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
5	予想修正サプライズ	経常利益修正率、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	規模	上場時価総額、等
8	流動性	売買代金20日平均、等
9	ヒストリカルボラティリティ	ヒストリカルボラティリティ60日、等
10	騰落率	60日騰落率、等
11	為替感応度	ドル円に対する感応度

5. リスク管理

SAMURAI 25は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年 8月7日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Ｊトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Ｊトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Ｊトラストグローバル証券株式会社】

- ・ 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- ・ 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- ・ 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- ・ 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- ・ 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- ・ 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- ・ 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- ・ 入出金に係る手続き
- ・ 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- ・ 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- ・ 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要コストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Jトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(1)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会